

R3 (2021) 選考考査 少年補導職員－1

チクセントミハイ (Csikszentmihalyi, M.) の提唱したフロー経験 (体験) に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 熱中しているときの忘我の状態の感覚のことであり、行為と意識の融合、注意の集中、環境を支配している感情、自己目的性などの特徴がある。
2. 自我意識のうちの能動性の意識が障害された状態であり、他人に何かをさせられている、何かを考えさせられていると感じる体験である。
3. 創造的問題解決の過程において、洞察を得る瞬間にしばしば伴う「あー (わかった)」と声を出すほどに感動する心的体験のことである。
4. 回避できない不快な経験が繰り返されることによって生じる、何をしても環境を変えられないという全般的にネガティブな感覚のことである。
5. 目標へ接近していく行動が阻止された際に生じる緊張状態からくる不快な感覚のことである。

正答番号 1

R3 (2021) 選考考査 少年補導職員－2

次の記述ア～ウは、デュルケムが『自殺論』において論じた自殺の類型に関するものである。記述と類型の組合せがいずれも妥当なのはどれか。

- ア. 社会的規制が過度に弱い状態で、人々の欲望が社会によって規制されなくなることによって生じる自殺のことである。
- イ. 社会集団の統合度が過度に弱いときに、生きる意味や目的を失うことによって生じる自殺のことである。
- ウ. 社会集団の統合度が過度に強く、個人が集団の中に埋没している状況下で生じる自殺のことである。

	ア	イ	ウ
1.	アノミー的自殺	自己本位的自殺	集団本位的自殺
2.	アノミー的自殺	集団本位的自殺	宿命的自殺
3.	自己本位的自殺	アノミー的自殺	集団本位的自殺
4.	自己本位的自殺	アノミー的自殺	宿命的自殺
5.	宿命的自殺	自己本位的自殺	アノミー的自殺

正答番号 1